農業委員会活動報告その2 〔地産地消と食農教育推進活動〕

「大きなおいもが入ってたよ」サツマイモ感謝祭

とき：10月17日
ところ：港認定こども園

心配していた天候も、時折青空をのぞかせる収穫祭日和となりました。サツマイモ畑を目の前にして、はじけるような笑顔を見せる子どもたち。つるを引っ張る子、真っ先に土に手を入れサツマイモを探す子、みんな収穫の喜びを味わっているようです。

5月に植え付けたサツマイモは、獣害対策が功を奏し、無事この日を迎えることができました。

園に帰ってからの野菜についてのお話の中で、大原博幸委員が、里いもの大きな葉っぱに水を落とすと、丸い水玉になってはじいてしまう不思議な現象や、親イモの周りに小イモ、孫イモとたくさんついていることなどを、大きな里いも一株をかざしながらお話しすると19名の園児たちは食い入るように聞き入っていました。

やがて焼き芋のいい匂いが園庭からただよってくると、いよいよ楽しいおいも料理。子どもたちは小さな手に包丁を持って里いもを切ったり、芋づるの皮をむいたり団子を丸めたり。

子どもたち、先生方、保護者の方々、農業委員みんなで石焼き芋、芋づるのきんぴら、里いものきぬかつぎ、サツマイモ入りぜんざいを完成させました。

港認定こども園での「食農教育」は、今年で3年になりました。子どもたちが直接土に触れ、野菜の成長を観察しながらやがて収穫を迎える。調理にも加わりながら、おいしく食べる。さらに、保護者の方が参加することで家庭でも楽しかった収穫や料理が話題になることで、地産地消の取組みが進められることになればと思います。　（高尾利美委員）

◆なお、この日の様子は、全国農業新聞（10月28日号）に掲載されました。本誌7Pをご覧ください。

平成28年度遊休農地パトロール結果（10月末日現在）

農地パトロール後の集計数値（単位：㎡）

	27年度遊休農地	増　加	減　少	28年度遊休農地	左記の内、非農地とすべきもの
豊岡	58,770	2,603	4,567	56,806	0
城崎	40,724	0	469	40,255	0
竹野	183,624	0	0	183,624	0
日高	165,472	3,348	56,326	112,494	50,772
出石	177,920	38,511	30,684	185,747	3,745
但東	89,422	24,109	50,997	62,534	41,362
合計	715,932	68,571	143,043	641,460	95,879

※「増加」は新規と復活で、「減少」は解消したもの。

「遊休農地を解消するために」

市内全域の農地の調査を行い、遊休化した農地の所有者に対して、今後の利用についての意向調査や相談活動などを行っています。

来年度からは「農地利用最適化推進委員」を設置し、遊休農地解消を含めた農地利用の最適化を行っていくことを見据えてパトロールしました。

きばっとんなる人らぁ㉞

このコーナーでは、
地域で頑張る農家のみなさんを紹介します。

大豆の刈取りも兄弟でやっています

兄弟・家族力で喜びの農業を

豊岡市江本　掘名　孝弘さん（51歳）

『今は実家が専業農家だったことに感謝している』と話す掘名孝弘さんは、５年前サラリーマンから転職し、父文男さん、兄敏昭さんと共に大規模稲作農家として頑張っておられます。

転職先を検討していた時期に、兄から『一緒にやらないか』と誘われて、将来は農業をしてもいいと考えていたので、特に抵抗もなく、家族にも理解をしてもらい就農しました。

兄弟で仕事をしていると、どうしても口喧嘩が絶えないが『働かせてもらっていることに感謝して、また迷惑をかけないようにしなければと思っている』と語る孝弘さん。また、休みの日にゴルフへ行くのが唯一の趣味で、『ゴルフを通していろいろな人と出会いがあり、その付合いがうれしい』とも語る孝弘さんです。

掘名家の農業経営は、水稲21haでコウノトリ育む農法（無農薬栽培）を実践されており、大豆8ha、麦2ha、キャベツ20a、その他水稲育苗ハウスを利用して、トマト・ホウレンソウなども栽培するなど水稲を柱に大規模複合経営をされています。また、多くの研修生を受け入れて指導したり、農繁期には親戚からも応援を頼んだり、就農5年目ですが、誇りと喜びをもって取り組んでおられます。

取材の日には、「秋祭りまでに地主さんに新米を届けなければ」と、休む暇もない様子でしたが、兄弟で快く対応していただきました。

厳しい農業環境下ですが、前を向いて兄弟力・家族力で地域の手本となる経営を実践していかれると感じました。

（北垣威司委員）

集落営農を始めました

日高町知見　代表 中西　正博さん（59歳）

平成28年4月1日に設立された知見集落営農組合（豊岡市日高町知見）の代表者 中西 正博さんにお話を伺いました。

中西さんは、「以前から、農家の皆さんの高齢化と、水田の荒廃に心を痛めていましたが、効率のよい農業を目指して、昨年暮れに地域の多くの方から賛同をいただき、今年の1月から具体的な話し合いを進めて、ようやく設立することができました。

当組合の今年度の経営面積は約4.3haですが、今年の作業を見て安心していただいた方々からの依頼も受け、また、周辺集落からの委託も受けて、来年度の耕作面積は現時点で8haを超える見込みです。

今後は、まだ参加されていない農家に加入を推進するとともに、作業受託の面積も拡大しながら、地域の農地の総合的な利用を図る観点から、生産調整対策を適切に実施し、農作業の効率化に努めていきたいと考えています。

水稲栽培を中心に、役員とオペレーター合わせて12名で力を合わせて経営し、『安全でおいしいお米だ』と言ってもらえるように、化学肥料は極力使用しない減農薬栽培から無農薬栽培を目指します。

収穫したお米は、当集落の方々に購入していただくとともに、希望者には個別販売もしています。

将来の法人化に向けて、今年の農業経営の結果をしっかりと検証し、来年度以降に生かしていきたい」と、張り切っておられました。

（中村勝美委員）

今日の農作業の段取りを協議中です